広島大学　学部・附属学校共同研究機構研究紀要
〈第38号　2010．3〉

中学校における音楽科の学力を確かなものとする教育プログラムの開発（３）

― 中学生の批評能力及び鑑賞能力に着目して ―

三村　真弓　　光田龍太郎　　松前　良昌　　桑田　一也
吉富　巧修　　高旗　健次　　藤井　恵子

Ⅰ　はじめに

平成20年度改訂の中学校学習指導要領では，総則において「言語に対する関心や理解を深め，言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え，生徒の言語活動を充実すること。」とされ，各教科においても言語力の育成が求められるようになった。これを受けて，中学校音楽科では「根拠をもって自分なりに批評することのできるような力を育成する」こととなった。具体的には，音楽科の学習の特質に即して言葉の活用をはかる観点から，鑑賞領域において「言葉で説明する」「根拠をもって批評する」ことが目指されることになる。しかし，これに関して危惧を抱く関係者も少なくない。なぜなら，音楽を鑑賞する際の言語力を重視すると，国語の能力の高い学習者が良い評価を得ることになり，音楽に対する感受性が豊かであるにもかかわらず言葉に表すことが苦手な学習者を正当に評価できない危険性が生じてくるからである。

音楽科授業では，鑑賞の授業において，ワークシートに感想や気づきを書くことが多い。しかし，鑑賞だけでなく，歌唱や器楽の表現領域の授業においても，他者の表現を言葉によって評価することが多いといえる。

音楽科授業において，言語力を育成するにはどうしたらよいのかを明らかにするためには，表現や鑑賞の授業において，生徒がどのような言語力を有しているのか，言葉で感想を書くときには，どのような傾向があるのかを探ることがまず必要であると考える。

そこで本研究では，中学校の生徒が，表現や鑑賞の授業において，聴取した音楽表現や楽曲に対してどのような言葉で評価するのかを明らかにすることを目的とする。具体的な方法として，Ａ中学校における歌の発表会に対する評価，Ｂ中学校におけるミュージカルの発表会に対する評価，Ｃ中学校における鑑賞授業での感想の内容を分析し，考察する。

Ⅱ　歌の発表会に対する評価（Ａ中学校）

Ａ中学校では，幅広い音楽活動を通して，常に聴き手を意識した主体的な表現を追求するなかで，生徒に技能や知識を獲得させることを目指している。年に１回合唱コンクールを実施し，年に数回歌の発表会を行っている。

歌唱指導の際に常に留意して指導している点は，以下である。

①歌うことを恥ずかしがらせないこと。
②とにかく声をしっかり出させること。
③歌唱技能は，比喩的表現を用いて，感覚的に把握させること。

①に関して，中学生は歌うことを恥ずかしがるが，歌うことが恥ずかしいのではなく，歌わない方が恥ずかしいのであるということを，入学直後から徹底する。

②および③に関して，合唱コンクールの練習では，呼吸法や発声法などを，「内臓を下げて」「気管支をペットボトルくらい広げて」「口の中は，あくびが出る２秒前」などの比喩的表現によって示すのである。

これ以外にも，練習の重要性，他者（他グループ）の演奏を鑑賞するときの態度などについて，場面に応じて繰り返し指導している。

表１は，歌（独唱）の発表会における，各個人の他者評価から，キーワードとなる言葉を抽出し，その言葉が意味する内容の頻度をみたものである。対象とした人数は，以下である。なお発表会は，各クラス２回にわたって行われている。

Mayumi Mimura, Ryutaro Mitsuda, Yoshimasa Matsumae, Kazuya Kuwata, Katsunobu Yoshitomi, Kenji Takahata, Keiko Fujii: The Development of Educational Program for Ensuring Academic Ability of Music in Junior High School (3).

１年１組：１回目；40名，２回目；39名
１年２組：１回目；38名，２回目；35名
２年１組：１回目；36名，２回目；38名
２年２組：１回目；39名，２回目；40名
３年１組：１回目；36名，２回目；39名
３年２組：１回目；39名，２回目；39名

表１のキーワードは，通常の歌唱指導の際に教師が繰り返し注意していること（授業規律，声の大きさ，練習，恥ずかしがらずに歌うこと）と，歌唱技能に関すること（姿勢，発音，発声，合唱の声，音を伸ばす・ブレス）と，音楽の諸要素（音程，強弱，リズム・テンポ，楽譜記号）と，曲想に関すること（表現）となっている。すべての学年を通して，授業規律と声の大きさに関する内容が圧倒的に多い。授業規律に関する内容は，３年生では若干少なくなっている。また声の大きさに関する内容は，圧倒的に１年生が多い。１年生が最も気づきやすい内容は声の大きさであるのである。２年生のある生徒の「１年の時は声の大きさを重視していたが，２年生になったら声の大きさ＋音程がないといけないと思う。」という言葉からも，１年生のうちは，大きく歌うことが最も重要な課題であると生徒自身が思っていることがわかる。

表１　歌の発表会における批評文のキーワード別分類

クラス	授業規律	声の大小	姿勢	発音	発声	合唱の声	伸ばす・ブレス・出だし	音程	強弱	リズム・テンポ	楽譜記号	表現	練習	恥じない	合唱コンクール
1-1	34	50	5	1	2	0	1	9	5	0	1	1	3	2	1
1-2	20	53	1	0	6	2	8	11	8	0	0	0	5	1	5
2-1	35	32	1	0	2	2	1	6	8	0	0	2	9	2	1
2-2	23	39	8	0	5	6	3	7	14	3	2	2	11	1	1
3-1	22	41	1	0	3	2	0	6	5	0	0	7	11	2	5
3-2	11	35	0	2	4	2	0	10	4	1	0	9	13	2	2

発声と合唱の声に関する内容を合わせると，１年生では10，２年生では15，３年生では11ある。発声法に関しては２年生が最も関心をもっている学年であろう。一方，音程や強弱の内容は，どの学年もかなりの数にのぼっている。

ここで着目したいのは表現である。１年生では１，２年生では４，３年生では16ある。１年生の「表現をよくしている人としていない人の差が激しかったと思います。」という言葉に比べて，２年生では「〈おぼろ月夜〉の人は，やわらかさ，曲の雰囲気が出ていました。〈茶摘み〉の人はテンポは速いなと思ったけど，〈茶摘み〉のリズムはつかんでいました。〈雪〉の人は，はずんだ感じが歌にあらわれていてよかったと思った。」と表現が具体性を増している。また，「〈もみじ〉を歌う人で，音の終わりを丸めている人がいていいと思ったので，合唱をする際に少し意識して歌ってみようと思います。」と，自身の歌唱表現に生かそうする記述もみられる。

さらに３年生になると以下の表現に変わる。

・まったりと世界観を作る人もいれば，思いっ切り歌って聴衆を圧倒させるような人もいて，今回の歌の発表会は「レベルが高いな」という印象を受けました。
・曲によって歌い方を変えていたり，強弱をつけていたりと工夫していた。
・自分なりの歌い方や自分の持ち味を交えながら，歌っている人が多かったので，曲の感じがよりいっそうわかりやすく，曲に合っていたと思います。自分の気持ちがいかに相手に伝わるかが，またその伝え方が大切だということを学ぶことができました。
・曲によって歌い方を変えていたり，強弱をつけていたりと工夫していた。
・〈We are the world〉を歌った人は，声が大きくて平和を願う気持ちが込められているなと思った。〈Silent Night〉を歌った人は，静かに堂々と歌っていた。〈ソーラン節〉の人はりりしかった。〈ゆうやけこやけ〉はとても切ない感じ，でも温かみのある歌い方だと思った。
・伝えるという気持ちを強く前に出すことがあまりできなかったので，次から気をつけたい。

以上のように，教師が常に繰り返し投げかけている言葉かけは，生徒に非常に強く印象づけられていることがわかったが，同時に，学年をおって自分なりの感じ方ができるようになり，独自の言葉でそれを表現できるようになることもわかった。

このように，自分なりの感じ方ができるようになるためには，数多くの音楽経験をすることが必須であ

る。A中学校の場合には，合唱コンクールの指導において，それがしっかり行われているがゆえに，３年生の一部にみられた鋭い感受性や，それを表す豊かな言語表現が可能となったといえる。しかし，すべての生徒がそこへ到達することは難しい。実際多くの生徒は，「とても良かった。」「声がきれいだった。」「上手だった。」と述べるにとどまり，単なる感想を述べているにしか過ぎないのである。

Ⅲ　ミュージカル発表会に対する評価（Ｂ中学校）

Ｂ中学校では，選択音楽の時間に，オリジナルミュージカルを題材として扱っている。本題材の目的は，ミュージカルの特質である総合芸術の表現力を高めることと，協同的創造力を育成することにある。

両者に関わる能力として，「イメージする力」「感じる力」「創造力」「表現力」が必要であり，さらに作品を創り上げていく過程では「コミュニケーション力」も必要となる。

ミュージカルを創作するにあたっては，まずテーマ設定をしなくてはならない。何を最終的に表現したいのかをイメージし，そのヴィジョンにそって，脚本，音楽，舞踊，演劇，美術などのさまざまな芸術分野から，ミュージカル創作，演出，発表へとアプローチしていくことになるのである。

本研究で扱うのは，中学校２年生選択Ｂ音楽の「ミュージカル　ピーターパン」の中間発表会で書かれたワークシートである。演ずるのは２年生の音楽を選択している生徒たちであるが，中間発表会を鑑賞してワークシートを書いたのは，１年１組40名，１年２組40名，２年１組41名，２年２組41名，３年１組41名，３年２組41名である。ワークシートの設問は，以下である。

音楽科アンケート

１．あなたは，今日の「ミュージカル　ピーターパン」中間発表会を鑑賞して，次回本番に期待をもつことができましたか？

　　とても　　まあまあ　　あまり　　まったく

２．その理由を書いてください。

３．工夫しているなと感じたことはどのようなことでしょうか？

４．歌唱やダンスや演技や音楽の使い方などでがんばっているなと伝わってきたことはどのようなことだったでしょうか？

ワークシートに記入された生徒の評価文をみたところ，主として２つに分かれることがわかった。

第１はミュージカル創作過程での工夫点に対する気づきとそれに対する評価であり，第２は中間発表会での表現活動に対する評価である。

第１の気づきと評価は，主に，(1) 音楽，(2) ダンス，(3) 照明・音響，(4) ナレーション・演技，にまとめられる。以下で，学年別に評価をみてみよう。網がけしている部分は，否定的な意見である。

１　作品の工夫点とそれに対する評価

(1) 音楽

［１年生］

・たくさん有名な曲とか使っていた。
・EXILEの歌が良かった（複数回答７）。
・嵐の〈時代〉がとても良かった（複数回答４）。
・音楽の使い方が上手かった。
・音楽でできるだけ伝えようとしているところ。
・言葉を少なくし，音楽で気持ち的なものを伝えていたのが工夫しているなと思った
・曲の種類がたくさんあって楽しめた。
・ピーターパンの場面にあった音楽を選んでいた（複数回答２）。
・曲の感じとその場面の雰囲気がとてもあっていて良かった（複数回答６）。
・すごくぴったりの曲を使ったりしていて良かった。
・途中にアップテンポの曲があったり，最後の曲がゆったりとした曲だったり，選曲が良かった（複数回答２）。
・明るい曲を使って，みんなを活気づけようとしたところ。
・場面に合わせて明るい曲や暗い曲に変えていたこと。
・音楽がにぎやかな曲だったのでよかった。
・オリジナルの歌を作っているのがすごい。
・歌を歌っているところは，ピアノ伴奏でやっていたので，歌が目立ってとてもいいと思った。

［２年生］

・歌詞内にピーターパンという言葉が出てくる曲を選んでいたこと（複数回答２）。
・ディズニーランドを連想するような音楽は，ピーターパンというディズニーのミュージカルにとても合っている。
・役に合った音楽を使っていて，イメージしやすかったこと（複数回答４）。
・その劇の場面に合った曲を選んでいること（複数回答13）
・選曲がとてもいい（複数回答３）。
・歌が作詞・作曲されていたところ（複数回答11）。
・歌はとても良い歌詞と曲で，ピーターパンのイメージがしやすかったと思う（複数回答４）
・音楽の使い方がよかった。
・BGMの選曲など凝っていた。「そんな感じがする」

と思うような曲で工夫していると思った（複数回答３）。
・劇の部分でBGMをかけたところ。オープニングで歌とダンスの両方があったところ。
・台詞を言う時の曲が騒がしくなく，台詞が聞き取りやすかった。歌う時の曲も，CDなどではなくピアノだったので聞きやすかった。
・音楽がナレーターの台詞と合っていて良かった。
・台詞を言う時、曲が騒がしくなくて，台詞が聞き取りやすかった。
・歌う時も，CDではなくピアノ伴奏だったので聞きやすかった。
・音楽を流す時に，誰も何も言わない時は音量を上げて，誰かがしゃべり始めるところから音楽を小さくしていた（複数回答２）。
・音楽がダンスに合っていた。
・最後の別れのシーンの歌は，悲しいことを表現するため,声を小さくして歌っているところがよかった。
・もう少しその場に合った曲・ダンスを考えてほしいと思った　。踊りは良いけれど，場面にあった曲を考えてほしい。
・EXILEの曲とピーターパンが合っていない。選曲ミス（複数回答２）。

［３年生］
・いろいろな音楽を使っていた（複数回答２）。
・場面に合った感じの曲を選択していて良かった（複数回答２）。
・挿入の曲がよかった。ピーターパンっぽかった。
・歌を知っている曲にしたことがよかった。
・にぎやかな曲で元気にみえた。
・EXILEなど，今時のかっこいい曲を入れて，新しい感じがしてよかった。
・ダンスと音楽が合っていて良かった。
・音楽を使って演技していた。
・すべて同じような曲だった。
・ネバーランドのイメージと音楽のギャップがあった。
・嵐の曲でやる意味がわからない。〈時代〉はピーターパンに合わない（複数回答２）。

(2) ダンス

［１年生］

ダンス
・たくさん踊りを入れていたところが良かった（複数回答４）。
・踊りや踊りの位置が工夫できている。
・最初一番後ろにいた人が前にきたり，前にいた人がしゃがんだりしていたので，全員をしっかりと見ることができてよかった（複数回答12）。
・海賊の踊りの時，フック船長を一番前にして，誰がフック船長かわかりやすくしていたところ（複数回答３）。
・２人組や少人数で踊る時，そのほかの人が座っていたので，集中して見れた（複数回答２）。
・踊りの振り付けが特徴的だった。
・歌やダンスの時の並びがきれいで，ミュージカルらしかった。
・歌とダンスが合っていた（複数回答７）。
・その場面に合ったダンスや登場人物の役に合ったダンスになっていた（複数回答７）。
・円になったり,何人かで分けて踊っていたところで,全体がかみ合っていた（複数回答３）。

［２年生］
・ダンスが多いこと（複数回答５）。
・ダンスの選曲がよかった。
・曲に合った振り付けだった（複数回答３）。
・一から振り付けも考えたオリジナルのダンス（複数回答２）。
・ピーターパンやフック船長などの主要人物を踊りの真ん中においているところ（複数回答４）。
・ダンスの前後を交代して，全員が前で踊れるようにしてあったこと（複数回答20）。
・その場だけで踊るのではなく,いろいろ移動したり,立ったり座ったりしたり，グループに分かれて掛け合いになったりして工夫していた（複数回答12）。
・その場面に合わせてダンスを変えていたり，それぞれの役に合うダンスをしたりして工夫していた（複数回答17）。
・ただ踊るだけでなく，歌を歌ったりしていたこと。
・ダンスを踊らない人は，手を叩いてリズムをとったり，盛り上げようとしていたところもよかった。
・ピーターパンの話をダンスで表現しているところがよかった（複数回答２）。
・台詞と台詞の間にちょこちょこダンスを入れて，そのときの状態や感情などを身体で表現しているところが工夫点だと思った。
・台詞を少なくして，ミュージカル風のダンスを中心としていたことがよかった。

［３年生］
・ダンスがよかった（複数回答３）。
・ダンスが多くてよかった（複数回答３）。
・ダンスの振り付けがよかった（複数回答２）。
・いろいろな種類のダンスを踊っていた(複数回答２)。
・ダンスの時，主要人物を前に出したところ（複数回答２）。

・前後を交代したりして，１人ひとりの顔が見えやすいように工夫していた（複数回答７）。
・それぞれの場面や役に合わせたダンスになっていた（複数回答２）。
・ダンスの位置がよかったし，ペアになったり，順々に出てきて踊ったり，工夫していた（複数回答20）。
・ストーリーの合間に踊りを入れたところ。
・音楽や踊りを使って演技していた。
・すべて同じような踊りだった（複数回答４）。
・踊りが中途半端で何をしているのかわからない。
・ダンスばかりで，もう少し見る人が退屈しない工夫があったらよかった（複数回答３）。

(3) 照明・音響

［１年生］
・照明を当てていたのでとてもかっこよく見えた。
・スポットライトとダンスがぴったりだった（複数回答２）。
・スポットライトの当て方がよかった(複数回答６)。
・明かりの色やパターンを，シーンや曲によって分けていた。(複数回答６)
・ダンスの時に，照明をくるくる回してきれいだった（複数回答７）。
・役割をちゃんと分けて，何もしていない人が照明を代わりばんこにしていた。
・音楽を大きくしたり，小さくしたりしていて，場面の切り替えがわかった。

［２年生］
・照明の色を変えたり，クルクル回したりして感じを変えていたところ（複数回答５）。
・照明の人ががんばっていて，雰囲気が出せていた。
・照明のスイッチを入れたり切ったりする人を，踊っている人から出して，人数を削減している。
・照明を付けるタイミングやBGMを流すタイミングを踊る人が手を挙げてやっていたのがよい。
・ナレーションの時は，上の照明だけにするとか工夫している。

［３年生］
・照明がクルクル回っていた（複数回答２）。
・照明の使い方が良かった（複数回答７）。
・照明係，音響係も，踊りや歌に参加して，皆で１つの作品を作ろうとしているところが良かった（複数回答２）。
・BGMが大きすぎた。

(4) ナレーション・演技

［１年生］
・ナレーションが入ることで，歌だけじゃわからないストーリーがわかった（複数回答４）。
・途中の演技で話の流れがつかめた。
・役に合った演技をしていて，はきはきしていたところが良かった。
・出番がない人は隠れたり座ったりしていたところ。
・暗くして、声を出さずに早く移動していた。
・ストーリーがわからない（複数回答２）。

［２年生］
・おおかたの話の道筋がわかるようにナレーションがあったので，大体の話の流れがわかった（複数回答５）。
・演技を大事なところだけ取り入れていたところがよかった。
・ナレーターがしゃべっている時のBGMなど，雰囲気がよく出ていた（複数回答２）。
・ナレーターやいろんな人の台詞の前に，BGMの人が音量を小さくしていたところがよかった（複数回答２）。
・もっと台詞を入れてほしかった。

［３年生］
・歌とダンスばかりで，ストーリーはナレーション以外わからなかった。劇の部分が少ない（複数回答20）。

２　表現活動に対する評価

１年生は，「ダンスがすごかった」「ダンスと歌がそろっていた」「ダンスの振りが大きかった」「歌の声がそろっていた」「照明がよかった」「音量が大きくて迫力があった」等の肯定的な評価が多い。「ダンスを覚えていない人がいた」「声が小さかった」等の否定的な評価もあるが，少数にとどまっている。

２年生の評価者は，選択Ｂ音楽の生徒でミュージカルの出演者と，授業を選択してない生徒の観客とに分かれる。表現活動に対する評価は，観客からの肯定的な評価と，出演者の自己反省的な評価とに二分される。「声が良く出ていた」「ダンスがそろっていた」に対して「声が小さかった」「ダンスが覚えきれなかった」等の評価も多い。音量に関しては，「大きすぎた」という評価も見られる。

３年生は，「一生懸命やっていた」という肯定意見は少数で，「ダンスと歌ばかりで，ストーリーがわからない」「声が小さくて聞こえない」「ダンスをもっと覚えるべき」「人の踊りを見て踊っていた」「下ばかり見ない」「ダンスの振りが小さい」「音が大きすぎる」「やる気がない者がいた」等のかなり厳しい評価があった。

３　考察

１年生の評価の観点は，表面的なところに集中している。ダンスや照明など視覚的に訴えるものに意識が

集中しており，音楽的価値や，総合芸術としての価値までは気づいていない。曲の選定でEXILEや嵐の曲の評価が高いのも，自分の好みからである可能性が高く，役柄や場面に合った曲かどうかという判断がなされているかは疑問である。

２年生の評価は，創り上げた当事者であることもあって，評価の観点が明確であり，評価の内容が具体的である。ただし，自分たちの工夫点が全面に押し出されているために，ミュージカル全体として客観的に評価できているかは難しいところである。

３年生の評価は，下級生に対してであるので，やや手厳しいが，評価内容は妥当で，しかも客観性がある。すでに２年生の時に一度ミュージカル創作をしている３年生には，その経験から作成過程や発表会での評価のポイントがよくわかっているといえよう。

Ⅳ　鑑賞授業における感想（Ｃ中学校）

Ｃ中学校では，従来から鑑賞に力を入れている。学習内容は，楽曲をめぐる知識（音楽史上の位置づけ，作曲者，作品の背景，楽曲の構造，楽曲の内容，楽器等）が中心である。鑑賞の授業でいつも心がけていることは，鑑賞のポイントをしっかり押さえてから鑑賞させることである。しかし，生徒の感想・気づきの文章を読むと，語彙が豊富で作文能力のある生徒は，概して的確な表現で書くことができるが，そうでない生徒，特に男子の多くは，最初から丁寧に書くことをあきらめ，ありきたりのことしか書かないことが多いことがわかった。そこで今回は，教師が説明する鑑賞のポイントを生徒にまとめさせ，それに対応して感想や気づきを書かせるようにした。その結果，聴くポイントが絞られ，具体的に書きやすくなったのではないかと考えられる。なぜなら，日頃ノートにはあまり書かない生徒が，いつもより多くの文章を書いているからである。加えて，鑑賞する時の態度も今までより集中して聴いていたように思われた。

表２　鑑賞授業における音楽的な気づき

曲　　名	卵のカラをつけたヒナの踊り		サミュエル・ゴールデンベルグとシュミイレ		リモージュの市場	
鑑　賞ポイント	木管楽器		弦楽器のユニゾン，弱音器付きトランペット		テンポの速さ，けんか	
項　目	音楽的気づき	ポイントの一致	音楽的気づき	ポイントの一致	音楽的気づき	ポイントの一致
男　子	51.4%	27.0%	67.6%	59.5%	56.8%	51.4%
女　子	56.4%	48.7%	82.1%	82.1%	79.5%	79.5%
合　計	53.9%	38.2%	75.0%	71.1%	68.4%	65.8%

鑑賞教材は，ムソルグスキー作曲の組曲「展覧会の絵」より，〈卵のカラをつけたヒナの踊り〉，〈サミュエル・ゴールデンベルグとシュミイレ〉，〈リモージュの市場〉である。３曲の内容・概要をあらかじめ説明し，ワークシートに鑑賞のポイント（どういうところに注意して聴くか？）を書かせた。曲を聴いたあと，３曲それぞれについて，どういう点がよかったか，面白かったか，つまらなかったか，物足りなかったか，などを具体的に書かせた。調査対象は，中学３年生２クラス（男子37名，女子39名，計76名）である。

平成20年度改訂中学校学習指導要領（音楽）では，音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き，言葉で説明する，あるいは根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと，となっている。つまり，説明したり批評したりする根拠は，あくまでも音楽的な内容でなければならないのである。そこで，記述の分析に関しては，音楽の諸要素や，楽器等に触れているものを，まずカウントした。さらに，この音楽的な内容に関わる記述が，鑑賞のポイントと合致しているかも調べた。その結果が表２である。総じて，女子の方が高い割合を示している。鑑賞ポイントでは，木管楽器が最も割合が低かった。弦楽器とトランペットは，対照的な２つの楽器の比較であり，識別しやすかったといえるが，木管楽器のそれぞれの音色については識別しにくく，説明できなかったのであろう。しかし，いずれも高い割合を示しており，教師の指導が非常に効果的であって，生徒の鑑賞能力が確実に向上したことがわかる。

Ⅴ　おわりに

以上，３校の事例をみてきた。Ａ中学校とＢ中学校の実践からは，豊富で質の良い音楽的経験によって，生徒の批評能力が向上することがわかった。Ｃ中学校の実践からは，鑑賞ポイントをしっかり把握させることによって，生徒の鑑賞能力が向上することがわかった。同時に鋭い聴取力を育成することの必要性も明らかとなったといえよう。